

不規則抗体検査において、抗 E のパターンを呈した抗 RH17(Hro)保有者の 1 例

◎寒川 裕未¹⁾、北爪 玲子¹⁾、奥村 郁美¹⁾、持留 汐莉¹⁾、山本 章史¹⁾
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター¹⁾

【はじめに】

D--は、日本人でおよそ 10 万人に 1 人の割合で検出される稀な Rh 血液型である。Rh 抗原は D,G,Rh29 のみの発現であり、輸血や妊娠などで免疫刺激を受けた場合、高頻度抗原である RH17(Hro)に対する免疫抗体を産生しやすいことが知られている。

抗 RH17 は高頻度抗原に対する抗体であるため、不規則抗体検査の反応パターンとしては自己血球以外に凝集を認めるものが一般的となる。今回、不規則抗体検査において抗 E を疑うパターンであったにも関わらず、抗 RH17 のみ保有する症例を経験したので報告する。

【症例】

50 代女性。乳がんの手術目的にて他院から紹介となった。問診票において、出産歴があり、本人申告にて輸血歴はなかった。

【検査結果】

手術前の血液型検査および不規則抗体スクリーニング検査において反応が認められたため、追加で抗体同定検査を实

施した。検査の結果、抗 E の保有を強く疑う反応パターンであった。追加検査として Rh の抗原検査を行ったところ、C、c、E、e に対する Rh 抗原を持っておらず、D--を疑う結果となった。

手術予定があり、Hb がやや低値であったことから、主治医に相談し血液センターに精査を依頼することとなった。精査の結果、D--であり、かつ抗 RH17 の保有が認められた。一方、E 抗原に対する抗体は保有していなかった。

【まとめ】

抗 RH17 に関しては、抗 C、抗 c、抗 E、抗 e などの欠損している抗原に対する抗体が混在する頻度が少ないことが知られている。今回の症例においても、抗 RH17 と抗 E との共存は認められなかった。

連絡先 06-6945-1181 (内線 : 5219)